

ところ会員各位

ところ会 2 月行事案内 (案)

平成 29 年、第 2 回テーマ

【奥秩父の冬の名勝「三十槌の氷柱 (みそつちのつらら)」、宝登山ロウバイ見学 (長瀨で食事)】

平成 29 年のバス旅行を下記の通り計画しました。

記

■日 時：平成 29 年 2 月 17 日 (金) 8 時 00 分集合

■集合場所：西武線池袋線武蔵藤沢駅

■見学場所及び時間

武蔵藤沢前 8:05 → 圏央道入間インター → 圏央道 → 関越道 → (トイレ休憩 S A 15 分) → 花園インター → 三十槌のつらら (散策約 60 分) → 昼食処【長瀨、有鱗倶楽部】(昼食 12:15~13:15) → 宝登山神社 → 宝登山・ロープウェイ山麓駅乗車 14:00 → 宝登山散策 → 宝登山・ロープウェイ山頂駅乗車 15:00 → 埼玉県立自然の博物館(15:15~16:25) → 長瀨 → 野上下郷石塔婆 → 花園インター → 関越道 → 圏央道 → 入間インター → 武蔵藤沢駅到着(18:30 頃) (解散)

■昼食場所：長瀨、有鱗倶楽部

■参加費用：4,000 円

■見学場所簡単ガイド

＜三十槌の氷柱(つらら)＞ ホームページより

大自然が作り出す氷の芸術！「三十槌の氷柱 (みそつちのつらら)」。知る人ぞ知る、冬の観光名所「三十槌の氷柱 (みそつちのつらら)」は奥秩父ならではの冬の厳しい環境から創られる氷の芸術です。

現地へ着いて駐車場から真下の川原へ下りると (足の不自由な方は駐車場からも見られます) 石清水が創る天然の氷柱が迎えてくれます。人の手が一切加わらない自然の造形は神秘的なたたずまい。冷たい川の空気を吸えば、心が洗われるようです。天然の氷柱は幅 3 0 m、高さ 1 0 m ! のスケールです。毎年 1 月中旬から 2 月中旬にかけて行われる氷柱のライトアップはとても幻想的！で、清流に写りこむ氷柱の姿も美しい光景です。この冬の季節にしか見ることのできない、大自然が作り出す芸術見られます。



氷柱（天然）

人の手が一切加わらない自然の造形は神秘的なたたずまい。冷たい川の空気を吸えば、心が洗われるようです。

幅30m、高さ10m！の氷柱



氷柱（人工）

天然氷柱の上流の崖に水を流して造られた氷柱。より大きなスケールの氷柱が皆様をおむかえします。

幅55m、高さ25m！！の氷柱



ライトアップ

氷柱のクライマックスはライトアップ。1月中旬から2月中旬にかけて行われる氷柱のライトアップはとても幻想的。

清流に写りこむ氷柱も美しい。

みそつち[三十槌] 秩父市大滝の地区 三十場と槌内をあわせて呼ぶ。三十槌の地名は、三十場（みそば）集落と槌打（つちうち）集落を合わせたもののようです。

<有隣倶楽部>・昼食処 ホームページより

長瀨駅から寶登山神社にむかって10分ほど歩いたところに、有隣倶楽部（ゆうりんくらぶ）があります。この建物は、昭和3年に長瀨町上長瀨地内に建築され、その後昭和55年この場所へ移築されました。また、有隣倶楽部の名称の由来は、論語の「徳不孤必有隣」（徳は孤にならず必ず隣有）にちなんで命名されたもので、本館内には、実業界の指導者であった故渋沢榮一翁の書いた扁額があります。



有鱗倶楽部



食事：写真は瀨里姫

<宝登山神社> ホームページより



所在地：長瀬町長瀬 1828 番地
祭神

神日本磐余彦尊（かみやまといわれひこのみこと）：我が国をお肇（はじめ）になられた神武天皇

火産霊神（ほむすびのかみ）：火の御神霊 無限の火の幸を恵み給う

大山祇神（おおやまづみのかみ）：山の御神霊 無限の山の幸を恵み給う

創立

西暦 110 年、今からおよそ 1900 年前、第 12 代景行天皇の御代とつたえられています。

神徳

当社は、火災盗難よけ・諸難よけの守護神としての神徳が高く、地元はもとより関東一円からの参拝者は、年間 100 万余を数えます。当社では、毎日祈願祭がとり行われ、家内安全、商売繁盛、火防盗賊よけ、交通安全、金運招福などご祈願を受け付けている。

社殿

現在の社殿は、江戸時代末から明治初頭に造り替え



られた本殿、幣殿、拝殿より成る権現造り（ごんげんづくり）です。欄間には、「二十四孝」を始め多くの彫刻が施されています。

由来

宝登山神社の発祥は約 1900 年前にさかのぼる。東国地方を平定するために軍勢を引き連れた日本武尊（ヤマトタケルノミコト）が宝登山の山頂を目指しました。道中で山火事に襲われた尊たちですが、その前に白い影と黒い影が突然現れます。ふたつの影は猛火に飛び込み、荒れ狂う炎を消し止めました。影のように見えたのは犬でした。2頭の犬は尊たちを山頂まで導びくと、姿を消したのです。尊は犬たちを神の使いと信じ、この山を「火止山（ホドヤマ）」と名付け、神を祭りました。

こういった由来もあり、宝登山神社は、火災盗難よけなどのご利益で知られており、また「宝の山に登る」という縁起のよさから、年間に 100 万人の参拝者が訪れます。1月の新年開運祈願祭、2月の節分祭、4月の例大祭、8月の船玉祭など、四季折々の行事も賑わいます。本殿は、江戸建築の技巧である「唐波風権現造り」により明治初期に建てられたもので、欄間には表情豊かな彫刻と鮮やかな色彩が施されています。

<宝登山> ホームページより



宝登山（ほどさん）は、埼玉県秩父郡長瀬町にある山。標高 497.1m、山麓には宝登山神社を擁する。山頂一帯、約 15,000 平方メートルの敷地に 3,000 本の臘梅が咲き乱れます。各所にある臘梅園と比べて、宝登山頂 臘梅園の特徴は、関東一のロケーションです。山頂から眼下に広がる秩父の町並みや、秩父のシンボル「武甲山」、鋸状の山容をした「両神山」など眺望抜群です。

中腹まで架設されている宝登山ロープウェイは、山麓駅から山頂駅までの全長 832m を約 5 分間で結んでいる。

宝登山頂駅付近には梅園、ロウバイ園や宝登山小動物公園などがある。

臘梅園について×見ごろ 1月下旬～3月上旬。

宝登山ロープウェイの山頂駅に到着して目の前にあるのが梅百花園、その上の段に東ろうばい園があります。東ろうばい園を横切って奥にあるのが西ろうばい園です。早咲きのろうばいは 12 月上旬から咲き始めますが、日あたりの良い西ろうばい園から満開を迎えます。



【ロウバイの花】

名前の由来として、花がロウ細工のように美しいという説と、花卉の色が蜜蝋に似ているからという説、臘月(旧暦の12月)に咲く花が梅に似ているからという説があります。植物学的には、梅の仲間ではなく、ロウバイ科ロウバイ属で中国中部原産の高さ3~4mになる落葉低木。まさに、冬に咲く花木の代表種と言えます。



＜宝登山ロープウェイ＞ ホームページより



標高 497 メートルの宝登山(ほどさん) に架設されている宝登山ロープウェイは、山麓駅から山頂駅までの全長 832m を約 5 分間で結び、2 台のゴンドラ (50 名様乗り) が、山頂駅と山麓駅をつるべ式に往復する四線交走式システムで運転を行っています。

＜埼玉県立自然の博物館＞ ホームページより

埼玉県立自然の博物館(さいたまけんりつしぜんのはくぶつかん)は埼玉県秩父郡長瀬町にある埼玉県立博物館の中で唯一の自然史博物館。秩父鉄道株式会社が設立した秩父鉱物植物標本陳列所の流れを汲み、90年以上にわたる日本有数の長い歴史を持つ登録博物館である。「埼玉の自然とその生い立ち」をテーマにしている。



変遷

- 1921 年 (大正 10 年) に秩父鉄道株式会社が「秩父植物鉱物標本陳列所」を設立した。秩父鉱物植物標本陳列所は現在の自然の博物館正面の養弘亭の敷地内に建っていた。
- 1949 年 (昭和 24 年) から 1979 年 (昭和 54) 年までは名を「秩父自然科学博物館」と変えた。現在の自然の博物館の敷地内に建物があった。

- 1981年（昭和56年）に埼玉県へと移管され、「埼玉県立自然史博物館」と称し、埼玉県博物館の中で唯一の自然科学博物館となった。
- 2006年（平成18年）に行われた県立博物館の再編整備にともなう条例改正によって、「埼玉県立自然の博物館」となった。
- 2011年（平成23年）9月から平成24年10月までの間、施設改修工事が行われ、平成24年10月6日にリフレッシュオープンした。

展示

埼玉県深谷市から産出した73本のカルカロドンメガロドンの歯化石（県指定天然記念物）や、秩父市大野原や秩父郡小鹿野町般若から産出したパレオパラドキシア化石（県指定天然記念物）、狭山市産出アケボノゾウ化石（県指定天然記念物）などが展示の目玉である。

<野上下郷石塔婆> ……ウィキペディアなどから

野上下郷石塔婆（のがみしもごうせきとうば）は、埼玉県長瀨町にある青石塔婆で**国内最大**で**国の史跡**に指定されている。

緑泥片岩で、高さは地上1丈6尺7寸(537cm)、幅3尺3寸2分(100cm)、厚さ4寸(12cm)。同質の台石上に立ち、表面上部には釈迦如来が刻され、次に梵字で「願以此功德、普及於一切、我等与衆生、皆共成仏」の光明真言の偈が4行にわたって刻され、下部には応安二年（1369）己酉十月日の年時が記されている。「天道大日如来碑」とも称され、仲山城主阿仁和直家のためにその遺族によって建立されたものという。

なお、この石塔婆は国道140号の開通に際し、現在地に移されたものである。



以上